

# 『一心一体』

インターネットは、  
心と心の隙間を補うツール。

息を吸う人。  
息を吐く人。

呼吸の中にネットあり。

P/PEP BITS

「糸巻き」 フレデリック・レイトン



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。株式会社P/PEP BITS社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など10,096の事業者へ情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社P/PEP BITS  
東京都港区赤坂2丁目9番11号  
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>

## 『観光立国で緊縛一番』

9月30日、外務省はインドネシア、フィリピン、ベトナム国民に対するビザ要件の大幅緩和を発表した。政府は観光立国の旗印を掲げ、2020年までに訪日外国人旅行者を昨年比倍増の2千万人に増やす計画で、その施策の1つに位置づけられる。

ちょうど8月と9月にベトナムを訪問した私は、ベトナム人の知人、友人の顔を思い浮かべながら今回の記事を目にしていた。日本人の立場では観光客の誘致を日本の経済発展の文脈で捉えがちだが、その一方でベトナム人がどう思っているのかを気にしていた。

今回の要件緩和によって、数次ビザ（有効期間中、旅行等の短期滞在なら何年度でも日本に入国できるビザ）が取得しやすくなり、その期間も従来の最大3年から最大5年に延長された。十分な経済力さえあれば5年間の数次ビザを取得できる。気軽に幾度か訪れて四季折々の日本を味わいたいと思うかもしれない。

ところで、そもそもベトナム人は日本に来たかと思っているのだろうか。ベトナム人は親日的だ。サッカー好きが多く、テレビでJリーグの試合が放映されていたりする。ビジネス面でも、例えばIT業界では、日本に留学したベトナム人が帰国して日本企業とのビジネスを橋渡しするケースが目立つ。私の周囲でも、このところベトナム企業と業務提携する事例が急増している。

仕事でベトナムを訪れた日本人は皆、ベトナム人の日本に対するコミットの深さに驚く。ベトナムの大学進学率は1割程度、大学卒業時の就職率は4割程度と言われる。仕事を望む人々に外資への期待が膨らむ中、日本への深いコミットには裏付けがある。日越両政府は、2002年にハノイとホーチミンにVJCC（ベトナム日本人材協力センター）を開設し、日本語や日本式経営を教えてきた。15年前に創業して今では5千人のエンジニアを抱えるベトナム最大のIT企業に急成長したFPTソフトウェア社では、仕事の7割程度を日本からの受託開発が占めている。日本政府関連案件も少なくないだろう。2007年にはFPT大学という企業大学を設立し、若者達に対して精力的に日本語とソフトウェア技術を教えている。日本が積極的に仕事を出すことへの反作用として、日本へのコミットが深くなっていると言えよう。

いずれにしても、いまベトナムでは、日本語能力を身につけながらも日本に来たことが無いベトナム人が増えているのだ。目を輝かせながら日本を学び育ってきた彼らは今後次々と日本を訪れるだろう。我々の仕事ぶりは彼らの目はどう映るだろうか。今一度襟を締め直そうと思う。